

リカレント教育って何するの？



調査研究本部政策調査部 課長補佐 鄭美沙(ていみさ)

リカレント教育のポイントとなるMOOC

社会人の学び直しであるリカレント教育への関心が高まっています。6月に「人生100年時代構想会議」が取りまとめた「人づくり革命基本構想」でもその重要性は強調されていますが、リカレント教育を受けるにはいったい何をすれば良いのでしょうか。

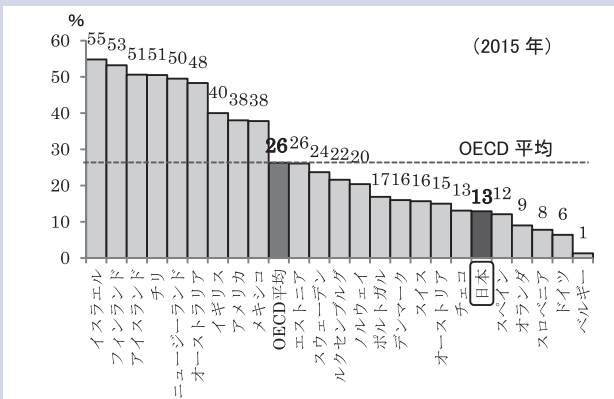
まず考えられるのが、大学や大学院といった高等教育機関への入学です。海外では、日本と比較して30歳以上の修士課程への入学者の割合が高く(資料1)、一度働いてから高等教育機関で学び直すことも少なくないことが分かります。しかし当然ながら、相当の費用や時間面での負担が生じます。そこで、より短期間・低コストで活用できるのが履修証明制度です。大学等が提供する短期の社会人向け学習プログラムを受講でき、修了書も受取れます。内容は、情報セキュリティの基礎や、女性の復職を支援する講座など多様で特色のあるものとなっています。

そして、特に今後発展が見込まれるのが、大規模オンライン講座のMOOCです(資料2)。インターネットを通じ、大学等の講座を無償または安価で受講でき、法律や最先端の情報技術などの専門科目から哲学や音楽など教養科目まで、国内外の専門家から学べます(資料3)。さらに講師や受講生同士の双方向の対話も可能です。米国では修了実績を企業の採用に繋げる動きもあり、日本での更なる普及が注目されています。

産官学連携した教育プログラムの開発が重要

時間と費用をかけてリカレント教育を受けても、社内評価やキャリアアップに繋がらないと懸念する声もありますが、既に約7割の企業が中途採用時に評価しています(資料4)。その理由として向上心など「学ぶ姿勢」への評価も多く見受けられます。リカレント教育推進に向けては、MOOCの普及に加え、産官学が連携し、実践的なスキルを習得できるプログラムの開発や、個人の学習歴や効果を見える化できる仕組みの構築などが期待されます。

資料1 30歳以上の「修士」課程への入学者の割合



(出所)文部科学省(2018)、OECD(2017)より筆者作成

資料2 世界のMOOCプラットフォーム

名称	学習者数	参加機関数	コース数
Coursera (米)	3000 万人+	150 以上	2000 以上
edX (米)	1500 万人+	109	1500 以上
FutureLearn (英)	803 万人+	144	402
学堂 X (中)	1200 万人+	69	1119
JMOOC (日)	80 万人+	49	198

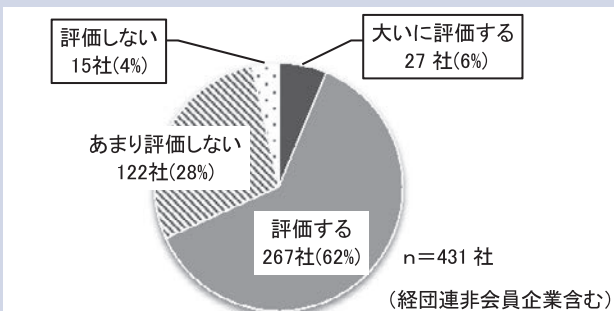
(出所)文部科学省資料(2018)より筆者作成

資料3 MOOCの講座例

分野	講座内容例
ビジネス	ソーシャルメディアマーケティング、エクセルスキル、イノベーションのためのデザイン思考
情報技術	VR アプリの開発、機械学習のための数学、サイバー戦争
社会科学	ゲーム理論、国際刑事法、仏教と現代心理学、哲学入門
音楽・文学	初めてのギター、クラシック音楽入門、「高慢と偏見」を読む

(出所)各MOOCのHPより筆者作成

資料4 リカレント教育を受けた人物に対する中途採用時の評価



(出所)日本経済団体連合会「高等教育に関するアンケート結果」(2018)より筆者作成